

DIVERSITY NEWS

2016.6.30

女性研究者研究活動支援事業 教職員セミナー

成果を出すための工夫—仕事と家庭の両立—

講師 清水 重敦 氏 京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 准教授
 小石 かつら 氏 京都大学白眉センター 特定助教
 モデレータ 高島 淳子 京都産業大学法学部 教授



平成28年度女性研究者研究活動支援事業 教職員セミナーを京都工芸繊維大学KIT男女共同参画推進センター、京都大学男女共同参画推進センターの協力を得て、6月8日(水)に開催しました。「成果を出すための工夫—仕事と家庭の両立—」をテーマに、両立の実践例を本学を含めた3大学の「研究支援員配置」利用者より紹介いただき、意見交換を行いました。

はじめに、大西 辰彦 ダイバーシティ推進室長より開会の挨拶がありました。研究支援員配置制度は、ライフイベント期の研究者の研究を支援するもので、本学では、平成26年度より実施していることが報告され、京都工芸繊維大学、京都大学の研究支援員配置制度を利用しながら、研究と育児の両立に様々な工夫を重ねておられる二人の外部講師のお話、本学の制度利用者を交えたパネルディスカッションを通し、本制度への理解を深め、両立について考える機会とすることが確認されました。

講師の京都工芸繊維大学デザイン・建築学系 清水 重敦 准教授からは、ご自身と研究者であるパートナーが共に出張調査を研究手法としており、育児との両立のためには出張日が重複しないよう調整の工夫を重ねておられること、研究室の運用の中に支援員の役割をうまくとりいれていることなどが紹介されました。

京都大学白眉センター 小石 かつら 特定助教からは、常勤職を得るまでの期間は自治体の保育園入園審査での優先順位が低く苦慮したことや、出張や夕刻からの研究時間確保のためのパート

ナーとの調整、研究へのモチベーション維持を考える事例などが紹介されました。

パネルディスカッションでは、はじめにモデレータである京都産業大学法学部 高島 淳子 教授より話題提供があり、研究支援員配置制度をどのように利用すれば研究成果につなげられるかについて意見交換を行いました。必要とする研究分野の知識を持っている支援員を見つけられるかどうかのポイントになるという意見があった他、支援員自身のキャリアについても考える機会となりました。

また、研究へのモチベーションについては特に意識をするわけでもなく、研究職を選択した以上、研究をしていない自分やパートナーの姿が想像できないという意見が出されました。

登壇された3名の研究者は共にパートナーも同分野の研究者で、パートナーとの共著を出版する時の秘訣が披露され会場が笑いに包まれました。

パネリストには会場の参加者からの質問に答える形で、各大学での研究支援員制度の運用方法を情報提供いただき、その違いと実状に沿った運用を参加者で共有することができました。

ダイバーシティ推進室事務局を代表して、物部 剛 学長室 課長より謝辞を述べた後、瀬尾 美鈴 ダイバーシティ推進室 副室長より、閉会の挨拶がありました。ライフイベント期の仕事と家庭の両立について有意義な意見交換ができたこと、今後のダイバーシティ推進室の活動に反映していくことが確認されました。



リケジョ トークショー ワタシの選択 教えます！

6月12日、オープンキャンパスの実施に合わせ、リケジョトークショーを開催しました。瀬尾 美鈴 ダイバーシティ推進室 副室長、総合生命科学部 教授の進行で、本学の理系3学部(理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部)で学ぶ女子学生が、大学・学部選び、大学での学びや研究、卒業後に思い描く姿など、「選んできた道」や「大切にしている想い」を紹介しました。



ダイバーシティ関連の蔵書展示

内閣府男女共同参画局が「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間「男女共同参画週間」を実施していることに合わせ、図書館にてダイバーシティ関連の蔵書展示の特別企画を実施しました。

